

足利風 -ashikaga-fu

2021
10月号
Vol.76



水彩画：川島直人

足利市民活動センター

開館時間：平日 10:00~19:00

休館日：土・日・祝日・第3月曜日

〒326-0052

栃木県足利市相生町1-1

足利市生涯学習センター3F

TEL 0284 (44) 7311

FAX 0284 (44) 7312

Mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集!
「一汁一菜のすすめ」
- * TOPICS
「漂泊の系譜」大盛況!
- *私のボランティアことはじめ
「てんでんこ(下)
柏瀬光寿」
- *サークル紹介
「山前観光協会」
- * INFORMATION

* 特集！ *

「一汁一菜のすすめ」

「ボランティアとは、切実さをもって問題に関わり、つながりをつけようと自ら動くことによって新しい価値を発見する人である」とは、ネットワーク組織論で高名な金子郁容さんの言葉である。また、ボランティアとしての関わり方を選択することは、自発性パラドックスの渦中に、つまりひ弱い立場に自分自身を立たせることを意味する、とも言う。日々実践している者には重い言葉だ。

フランスの経済学者ジャック・アタリは、コロナ禍を乗り越えるには“利他主義”〜つ



まり深刻な危機の今こそ競い合うのではなく“他者のために生きる”ことが必要だ！と言っている。日本中世の動乱に生きた親鸞の“他力”。それは、見返りを求めない慈悲のこころ“利他心”だと親鸞は考えた。

家庭料理の土井善晴さんと東工大教授・中島岳志さんの対談で「つくる人と食べる人との関係性の中に“利他”というものがはたらく」と語られている。

〜まずは人が手を加える以前の料理をたくさん経験すること。

それが一汁一菜です。ご飯とみそ汁と漬けもんが基本。そこ

にある美味しさは人間業ではないのです。人の力では美味しくすることのできない世界です。〜仏師が仏を彫り出すこと。一流の仏師ほど自分が仏様を彫っている感覚がないという。木を前にした時にもう木の中に仏がいる。その仏をただ彫り出しているだけだと。そうしているうちに仏が現れてくるという感覚。土井さんの料理もそういうものかなと。自然というもののの中に、もう美味しさがある。そこを整えていくことによって何か料理ができてくる。〜素材がいちばんの主役なんですね・・・

食文化はその土地の気候風土にふさわしいものが残る。それは命を守るということにつながっている！ボランティアもそういうことなのだ・・・。(M生)

* TOPICS *

「漂泊の系譜」大盛況！

4月24日(土)の茶論は〜現代を生きる我々は、心のどこかで、漂泊の人生に憧れている。投げ出すことのできない日々を背負い、世間という海で絶えず溺れそうになっているからこそ、心のどこかでそれらを捨て去り、我が身一つを大空にさらし歩いてゆく生きざまに憧れている・・・この漂泊の系譜に連なる、西行・一遍・芭蕉・山頭火らを熱く語る語り部と参加者たちとの間で至福のユートピアが市民活動センターに出現したように思えた。良い茶論だった。



私のボランティアことはじめ

「てんでんこ（下）」

柏瀬眼科院長 柏瀬光寿

アイキャンプは毎年、クリスマスの12月25日に始まり、外来での診療と白内障を中心とした手術を5日間で行う。患者数は外来が300人前後、手術は約60人行い、過去20年間で総外来患者数6000人、総手術患者数1200人を超えた。短時間で数多くの患者さんを診察・手術し、かつ良い結果を残すために、日本各地から経験を十分に積んだ（と思われる）メンバーを集めている。しかし初めて一緒に仕事をするメンバーが、どういう性格でどのように考え、立ち居振る舞うのか分からず、また手術における手法も実力も未知数の中で即席のチームを統括して行うことは、決して容易なことではない。しかし我々には「患者さんに見える喜びを提供したい」という共通した目的がある。そのためにわざわざ自分の時間を削り（約10日間の休暇を取り）、自腹を切っ（参加費10万円）まで参加しているのであり、その一点においてブレはない。ゆえに停電になった、機器が壊れた、医療器具がないなど、インフラも物資も整っていないインドでは様々なトラブルが毎回起きているが、其々が自ら考え行動して、問題を一つずつ解決していく。私はその時の皆の姿がたまらなく好きだ。これこそが「アイキャンプてんでんこ」である。またこの5日間は日頃、診療以外で頭を悩ます医院経営や人間関係のことなどを全て忘れ、純粹に医療に専念できる。これも私にとっての媚薬である。



それもこれも私を笑顔で送り出してくれる妻と子どもたちのお蔭である。またクリニックにおいても、院長不在の中でも「てんでんこ」で働いてくれるスタッフが患者さんを守ってくれている。私は多くの方々への支えに感謝しつつ、これからも楽しく医療活動を続け、足高代表として日本代表としてチベット人、インド人を笑顔にしていきたい。

Tashi Delek

（てんでんこ（上）は足利風8月号に掲載しています）

サークル紹介

★山前観光協会 「山前観光ガイドブック作成！」

山前観光協会では、山前の歴史・文化遺産を広く知って頂き散策を楽しんで頂く為、山前歴史散策周回モデルコース「大前」・「鹿島・山下」の小冊子にて観光と史跡の案内をしてまいりました。（大原神社、三崎稻荷神社、平岩八幡宮（智光寺跡）等の紹介資料など）

今般、足利市制祝100周年の令和3年、多色刷りの「山前観光ガイドブック」を作成いたしました。ご要望の方は、山前公民館・足利市地域福祉会館等にお問い合わせください。



* INFORMATION *

(※コロナ感染対策により内容が変更・中止になる場合があります。)

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。

★令和3年10月9日(土) 13:00～15:00

* 本 : 「日本文化の核心」(松岡正剛)

* 案内人: 鈴木 光尚さん

ひとこと: ～ジャパン・スタイルを読み解く～がサブタイトル。この国の深い魅力は本当に理解されているのだろうか? 独自の方法論で日本文化の本質を見通す「松岡日本論」の集大成です。編集工学という独自の分野を切り開いた多才な松岡正剛さんは、足利にも関わりの深い方であり、また若い頃から足利の詩人・岡崎清一郎さんの追っかけでもあった。バサラや粋・・・な話も盛りだくさんです。

★令和3年11月19日(金) 14:00～16:00

* 本 : 「四国遍路」(辰濃和男)

* 案内人: 木村 寛さん

ひとこと: 四国八十八ヶ所、金剛杖を手に千数百キロをひたすら歩く。土地の人から受ける「お接待」が身に沁みる。人はなぜ四国をめざすのだろうか? 今、ひとりのお遍路として四国を巡る著者の胸に去来する問いだ。人々と出会い、自然の厳しさに打たれて歩む巡礼行を達意の文章で綴る。四国巡礼を体験した一人として共感・感動のエッセイです!

■参加費: 無料

■会場/問い合わせ: 足利市民活動センター ☎44-7311

☆企画展(交流コーナー)

* 10月11日(月)～10月21日(木) 好彩会色鉛筆画作品展

* 10月25日(月)～11月4日(木) 足利絵手紙の会作品展

* 11月8日(月)～11月18日(木) 川島直人水彩画作品展

* 11月22日(月)～12月2日(木) 伝えたい足利の職人技展

※展示時間・・・10:00～19:00 ただし最終日は15:00まで
(土・日・祝日・10/18・11/15は休館日)

☆相談室&講座

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 14:00～16:00

* 講座 = 毎月1回

※詳しくは、別紙参照

編集後記

施設利用休止など、利用者様には大変ご迷惑をおかけしております。申し訳ありません。新型コロナウイルスとの戦いはいつまで続くのでしょうか。安心して暮らせる日々が早く戻ってほしいです。

(しおぱん)

